



発行日：平成30年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第9回川の地域部会を開催しました！

1月23日（火曜日）に第9回川の地域部会が豊田市職員会館にて開催されました。今年度の川部会の活動成果報告と次年度の活動計画について話し合い、全体会議に諮る内容について確認しました。



日時：平成30年1月23日（火）14:00～16:00

会議場所：豊田市職員会館2F会議室

参加者：17名（事務局含む）

◆主な意見交換内容

1. 本日の話し合いで決まったこと



■今年度の活動成果報告について

- 本川モデルはアユの生息環境改善実験や矢作川分派施設、家下川モデルについては新排水機場の工事の進捗状況などの現地視察と併せて意見交換の場をセットすることで、より具体的で活発な議論をすることができました。
- 地先モデルについては、過年度から山部会が取り組んでいる「山村再生担い手づくり事例集」に川関係の活動団体を取材対象に取り入れてもらうとともに、川部会有志の会員が取材、原稿作成作業に参加するなど、部会間の連携活動へと発展しました。なお、今年度から事例集の名称は「流域担い手づくり事例集」へと改名されました。

■来年度の活動計画について

- 本川モデル
 - ・アユの生息環境改善実験や給砂実験など、矢作川での課題解決に向けた各取り組みについて情報共有し、意見交換を実施します。
 - ・川や海の生物資源の減少の要因（貧栄養化）と考えられる矢作川の水質の状況について情報共有し、意見交換します。
- 家下川モデル
 - ・家下川湛水防除事業の進捗状況に関する情報共有と関係者との意見交換について、来年度も継続して実施します。
- 地先モデル
 - ・『流域圏担い手づくり事例集』について、川関係の活動団体の情報提供や取材活動への参加など、流域連携のテーマの一環として、さらなる活動の活性化に協力します。
- 次年度の懇談会の体制について
 - ・山部会、海部会との連携を深め、懇談会活動の活性化を図るため合同部会の開催に賛同します。



2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 今年度の活動成果報告について

(・意見 ▶ 回答)

全体会議資料案のうち活動成果報告について事務局より説明があり、意見交換をしました。

《川部会の活動成果について》

- ・加茂川水門の段差解消について、今年度は昨年度整備した堰上げ式魚道への改良対策前の視察であり、実際に改良対策後の成果はどのようなものとなったかを明示してほしい(浅田)
 - ▶ 今年度の視察は豊田東高校の生徒と協働で改良作業を実施する直前であった。改良後の成果については確認して資料に追加する。(事務局)
- ・ひょうたん池の段差解消問題については、新排水機整備によっては解消されないため、樋門の管理者で豊田市との協議が必要となってくる。これについては来年度の課題とさせてもらいたい。難しい問題である。(内田)
- ・直接的な活動の成果に関わらないが、矢作川のアユが今年はずごく少なかったと聞いている。矢作川のアユの生存量のような評価軸があると、全体の活動の把握や理解がしやすい。(浅田)
 - ▶ 今年、矢作川でアユが釣れなかったのは事実であり、愛知県水産試験場では餌環境が悪かったのではないかというのが一つの原因として考えている。(服部)
- ・アユの生息環境改善実験について、目標としているなわばりの形成までは結びつかなかったが、河床に石を置いた箇所は置かなかった箇所よりもアユの生息密度が多かったことから一定の成果があった。次年度は石の大きさを変えるなど改善を進める予定である。(加藤)
- ・矢作川の給砂実験について、今年度は実験概要と実験後の調査項目について説明を受けたが、その実験の結果を受けて、今後どのような方向性で進められていくのか知りたい(内田)
 - ▶ 今年度の委員会は1月末に開催予定である。ただし、実験結果のとりまとめが終わっていないため、結果の報告自体は来年度を予定している。(事務局)

(2) 流域連携テーマの活動成果報告について

全体会議資料案のうち流域連携テーマの活動報告について事務局より説明があり、意見交換をしました。

- ・現在三河湾ではアサリをはじめとした水産資源の減少が問題となっている。流域連携のテーマとして取り上げる必要があると思う。(浅田)
- ・川の水の貧栄養問題と海の水産資源の関係について海部会でも話題となっている。(服部)
- ・ごみ問題の最近の中心はプラスチックである。特に細分化されたマイクロプラスチックは世界的な問題となっており、水産生物だけでなく食品など人間生活への影響も懸念されている。(野田)

(3) 来年度の活動計画について

全体会議資料案のうち今後の活動計画について事務局より説明があり、意見交換をしました。

- ・矢作川の水質(栄養塩関係)について、アユにも影響が出ていると考えている。特にダムは栄養塩を消費する場という共通認識があることから、ダムに流入する水とダムから流下する水(栄養塩)に差があるかを調べていただきたい。(服部)
- ・矢作川流域で実施されている水質調査について整理し、情報共有する。(事務局)
- ・矢作川では矢作川環境技術研究会も参加して、市民主体による水質の一斉調査が6月に実施されている。精度は若干問題があるかもしれないが、参考データとして利用することができる。(野田)
- ・川の水質(貧栄養化問題)については、川部会だけの問題ではなくて、流域圏懇談会全体として注目したほうがよいという提案と認識した。(内田)
- ・次年度の活動方針として、3部会の合同部会の開催にあたっては、各部会で課題となっていることを話題提供のテーマとして意見交換できる企画としていただきたい(高橋)

今後の流域圏懇談会の予定



■第7回全体会議 平成30年3月24日(金) 14:00~ 安城市民会館3F大会議室



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 松山事業対策官 服部係長

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

